

研究授業をするとき、研究授業に向けて

○教室環境

- ・学級目標または、学年目標または、学校教育目標等何か貼る。
- ・掲示 動く掲示（毎日変化のある掲示）
日時に注意→もう終わっていないか？
季節はずれのものはないか。
スペースを埋めるための掲示は、さける。
目的にあった掲示になっているか。
- ・係活動が、活発に行われているように見せる。毎日活動している姿が見えるように。
- ・生き物の世話をきちんとやっているか？
生き物がいたほうがよい。鉢植えの植物でもよい。花が咲いているほうがよい。
- ・学級文庫、ファイル等の整理。使っているという感じを持たせる。
- ・「前」の整理→余分なものを置かない、ごちゃごちゃ感をさける。カーテンで隠す。
- ・発表等で使う名札は、黒板に貼らない。
- ・黒板は、右端に「日付と日番」ぐらい。できるだけ何も書かない。必要な連絡等は、小黒板かホワイトボードにして、取り外しができるようにする。
- ・黒板は、主として、子どもが使うという意識を持つ。
- ・チョーク、イレーサー、色チョーク等使い易いように黒板のみぞ配置する。
- ・子どもの発表用の指示棒を黒板のみぞに置いておく。
- ・教卓（指導机）は、置かない。

☆あたたかさ、一人ひとりを大切にしている、子ども一人ひとりが学級の中に居場所があるという感じが伝わるよう工夫すること。

○授業

- ・授業内評価の名簿と赤ペンは、ずっと手に持っておくか手元に置く。
- ・指名の仕方、指の指し方に気をつける。
- ・名前を呼ぶときは、「くん」「さん」または「さん」付け。→人権尊重の観点から。
- ・子どもに敬語を使わない。「敬体」「常体」を使い分ける。命令調は、さける。
- ・なれなれしい言葉遣いは、さける。
- ・教科書は、持たない。授業メモは、授業内評価の名簿と一緒に持っておく。
教科書を見る必要のあるときは、子どもの教科書を見る。
- ・服装は、体操服はさける。靴は、運動靴がよい。（音がしない靴）
- ・指導者の立つ位置は、できるだけ子どもの「横」か「うしろ」。前に立つ必要のあるときもある。
1時間の自分の動きを計画しておくこと。
- ・板書計画を立てておく。→実際に書いてみておくこと。
- ・板書の字に注意。→ひらがな、漢字の「止め」「はらい」「はね」。漢字の筆順。
- ・普段からノート指導をしておく。→参観者が子どものノートや教科書を見る。
まずいとおもうなら、ワークシートにして、ノートは出させない。

☆子ども一人ひとりがよく考えていて、それに先生がきちんと対応しているという感じが伝わるように工夫する。

○その他

- ・席は、賢い子どもをできるだけ後ろに。できない子どもを前の真ん中に。
- ・準備物は、必要数の2倍は用意しておく。2倍用意できないものもある。